

＜考え方・ねらい＞

●3つの“S”の視点「持続可能性 (Sustainable)」、「安全・安心 (Secure)」、「ショーケース (Showcase)」を踏まえたゼロエミッション (脱炭素) のまちづくりをめざす

- ・ゼロエミッション社会に向けた取り組みを行うことは国際的なコンセンサスであり、日本が持つ最先端の次世代環境技術を積極的に活用し、持続可能なまちをめざす。（「持続可能性」の視点）
- ・災害時においてもライフラインが途切れない多重化されたエネルギー及びICTインフラを構築するなど、安全で安心して滞在できるレジリエントなまちを構築する。（「安全・安心」の視点）
- ・まち全体がスマートシティのショーケースとして国内外に発信することで、まちのブランド力を向上させるとともに、体験型施設など観光資源として活用する。（「ショーケース」の視点）

●ICTの活用により、効率的・効果的なエリアマネジメントを推進する

- ・まち全体のエネルギー需給を把握し、効率的なエネルギーマネジメント（監視制御）を行う。
- ・防災や防犯、或いはおもてなしの観点から、ICTを活用した様々なアプリケーションサービスを提供するホスピタリティの高いまちを実現する。

●自然環境の活用による環境共生都市を構築する

- ・自然環境の創出を図るとともに、環境にやさしい交通・移動システムの採用により、環境に与える影響の少ないまちづくりを行う。

＜取り組みの方向性＞

1. 持続可能で安全・安心なゼロエミッション（脱炭素）の 地産地消型エネルギーシステム

- 再生可能エネルギーや発電段階でCO₂排出を伴わない水素発電などの新たなエネルギーによる「創エネ」、先進蓄電池システムや水素貯蔵（ステーション）などによる「蓄エネ」、コージェネレーション（熱電併給）、EMS（エネルギー・マネジメント・システム）などの「省エネ」、それら最先端の環境技術を最大限に活用することで、持続可能なエネルギーシステムを構築し、ゼロエミッションの達成をめざす。（※）

※再生可能エネルギー由来の電力等の域外からの供給という段階を経ながら、将来的には、CO₂排出ゼロの域内電源等により、域内エネルギー消費を賄うことをめざす。

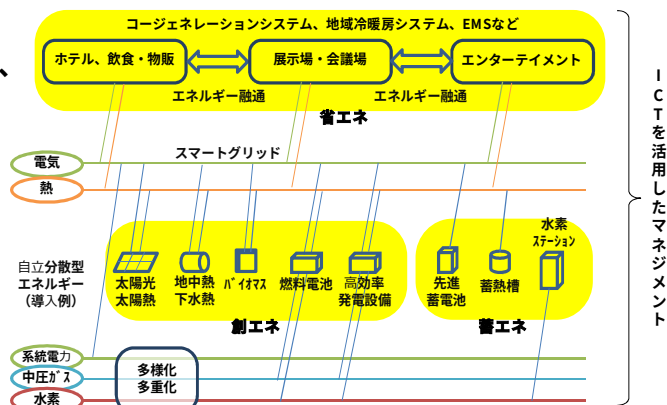


図 持続可能で安全・安心なエネルギーシステムの構築例

- 電力・ガス・水素などエネルギー源を多様化・多重化し、高効率な自立分散型エネルギーをバランスよく確保することにより、安全・安心な地産地消型のエネルギーシステムについて、まちづくりに合わせた段階的な構築を検討する。
- まち全体のエネルギー需給を把握し、エネルギー融通など効率的で統合的なエネルギーマネジメントをめざす。

2. ICT を活用した革新的なエリアマネジメント

- IoT（モノのインターネット）やビッグデータ分析など ICT を活用し、様々なソリューションサービスを提供することで、ホスピタリティの高いエリアマネジメントを構築する。
- まち全体の水やエネルギーの需要状況や、交通や来訪者など様々な都市活動状況の把握に、ICT を活用することで社会システム全体の効率化・最適化を図る。
- エネルギー、交通、安全・安心など都市の課題や来訪者ニーズに応え、都市の付加価値向上につなげる。

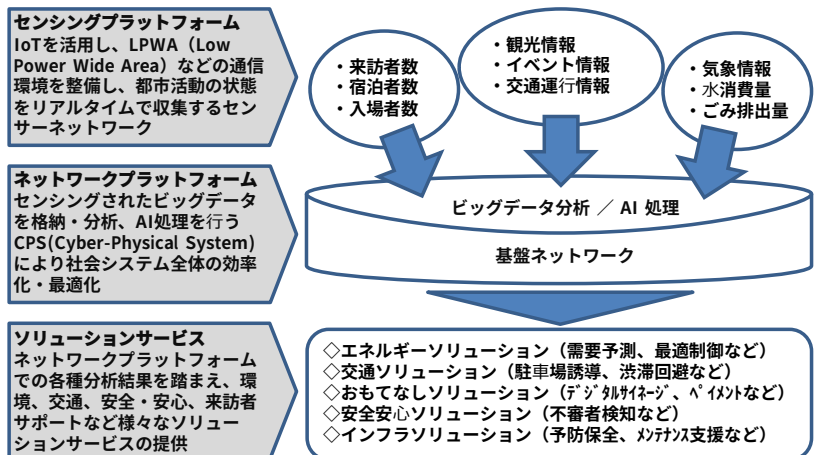


図 革新的なエリアマネジメントにつなげる ICT イメージ

3. 環境にやさしく快適性の高い交通・移動システム

- EV（電気自動車）や FCV（燃料電池自動車）など ZEV（CO₂ 排出ゼロの自動車）を積極的に導入するとともに、これらの交通手段が夢洲内で優先的に走行できるしくみ（優先レーン、優先駐車場）や公共交通の利用を促進する。
- 自動運転、自動駐車、自動充電など ITS（高度道路交通システム）技術や RT（ロボット技術）も活用しながら、渋滞を発生させないような交通需要管理を導入し、交通手段自体の快適性はもちろん移動空間も快適な設えとする。



(上段) パーソナルモビリティ⁶⁵、燃料電池バス（イメージ）⁶⁶
(下段) レンタサイクル⁶⁷、電気自動車（イメージ）⁶⁸

図 交通・移動システムイメージ

4. “リアルショーケース”による都市ブランドの向上

- 夢洲内で構築された持続可能なエネルギーシステムや ICT を活用したサービスの取り組みなど、まち全体が“リアルショーケース”として国内外に発信することで、夢洲のブランド力を向上させる。
- 環境技術や RT（ロボット技術）に関する体験型施設を導入し、最先端の技術の PR を図るとともに、観光資源としても活用する。



図 体験型施設（イメージ）⁶⁹

⁶⁵ 出典：トヨタ博物館ホームページ
⁶⁶ 出典：<https://pixabay.com/ja/>
⁶⁷ 出典：<https://pixabay.com/ja/>
⁶⁸ 出典：日産自動車ホームページ

5. 環境共生に向けた自然環境の創出

○環境共生都市のモデルとなるような自然環境を創出する。

○整備段階：

- ・夢洲の自然環境保全や生態系を育む土地造成、インフラ整備を実施する。
- ・建物内に自然の風や日射など屋外の環境を積極的に取り入れることで環境負荷を低減する。
- ・まち全体にみどりを配置することで直射日光を防ぎ（アスファルトの照り返し防止など）歩行空間の気温上昇を抑制する。

○維持管理・運営段階：

- ・夢洲の自然環境を活用したアクティビティや自然とのふれあいの場を創出する。
- ・排水の浄化処理技術の導入などによる公共下水への汚水排出量の低減や、水循環の取り組み（例：雨水や中水を打ち水、散水、非常用水および冷却水などとして活用）などにより環境負荷を低減する。



図 環境共生都市のモデルとなる自然環境イメージ⁷⁰

⁶⁹ 出典：オービィ大阪ホームページ

⁷⁰ 出典：<https://www.flickr.com>

＜考え方・ねらい＞

- 夢洲にしかない景観、夢洲でしか体験できない「非日常」を演出する空間・デザインの実現をめざす
 - ・海に囲まれた広大な土地を活かした新たなインフラ整備、多様な用途・デザインの建築物の建築などによる既成市街地では実現が困難な「非日常」を演出する都市空間の形成をめざす。
- 夢洲の特徴を最大限に活かした魅力ある水辺空間やみどり空間を形成する
 - ・海に囲まれた立地や広大な土地を活かし、水やみどりなどの自然環境あふれる空間を形成する。

＜取り組みの方向性＞

1. 大阪の新たなランドマークとなる都市景観

- 来訪者の印象に強く残る先進的で斬新なデザインの建築物や土木構造物、空からの視点を意識したランドスケープなどにより、夢洲全体がランドマークとなる新たな都市景観を形成する。
- 広大な土地を活かしたゆとりのある施設配置、水・みどりを適切に配置した上質な空間整備や昼間とは異なる印象的な景観づくり・空間演出のための夜間のライトアップなどに配慮した都市空間を形成する。
- ゾーンの立地特性、導入機能やその配置などの特徴を活かした都市空間とするとともに、隣接するゾーンとの調和に配慮した都市景観とする。



ランドマーク性のある建築（ビルバオ・グッゲンハイム美術館）⁷¹

夢洲全体で演出する夜間景観（神戸ハーバーランド）⁷²

図 都市景観イメージ

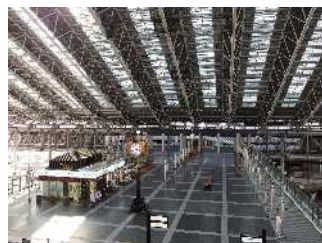
2. 駅を中心に展開する「非日常」を感じる空間デザイン

- 夢洲でしか実現・体験できない「非日常」を感じる空間デザイン（道路・広場や建築物など）を夢洲全体に展開し、特に、その中心となる鉄道駅周辺は、夢洲に降り立った人が、高揚感を覚える空間デザインとする。
- 駅前には、交通（結節）機能と交流機能を有する広場を整備し、その広場は、水・みどりを適切に配置し、人の交流や憩いの場となるアメニティ豊かな空間とするとともに、隣接する建築物やうるおい軸・にぎわいプロムナードとの一体性・連続性を確保し、夢洲の玄関口としてふさわしいシンボル性の高い都市空間を形成する。

⁷¹ 出典：https://www.flickr.com

⁷² 出典：https://www.flickr.com

- 建築物や道路等の空間デザインなどに関する夢洲全体のデザインのガイドラインを策定するなどにより、新たにつくるまちの強みを活かしたトータルデザインを実現し、将来にわたって高品質な都市空間を形成する。



到着した時に強い印象を与える空間体験（左からリヨン空港駅、ＪＲ西日本大阪駅、ニューヨークフルトンセンター）⁷³



快適で楽しい水辺に向かううるおい軸とにぎわいプロムナード（イメージ）⁷⁴

図 非日常を感じる空間デザインイメージ

３．水辺の魅力や日本の四季を感じられる上質で快適な都市空間形成

- 海に囲まれた立地という夢洲の最大の特徴を活かして、外縁部には、うるおいとにぎわいの融合したパブリックスペースとして人が集い、憩う空間を形成する。（水辺軸）
- 道路空間や建築敷地内は、エリアの特性や建築物の用途などを考慮しながら身近に水とふれ合う空間を創出し、夢洲全体で水都大阪を印象付ける水辺空間を形成する。
- 四季を感じることでのおもてなしを意識した水とみどりの空間を形成し、季節に応じたイベントや取り組み（祭、花火、イルミネーション等）が実施できる場を設け、日本の季節感を夢洲全体で感じられる（オールシーズン楽しめる）しかけづくりに取り組むなど、非日常を感じられる上質で快適な都市空間を形成する。



夢洲外縁部の水辺軸（イメージ）⁷⁵

水とふれ合う空間（イメージ）⁷⁶



日本の四季を感じる自然景観（イメージ）⁷⁷

図 水辺の魅力や日本の四季を感じられる都市空間イメージ

⁷³ 出典 <https://www.flickr.com>

⁷⁴ 出典 <https://www.flickr.com>

⁷⁵ 出典 <https://www.flickr.com>

⁷⁶ 出典 <https://www.flickr.com>

⁷⁷ 出典 <https://www.flickr.com>

4. 都心では実現困難な圧倒的なみどり空間の形成

- 夢洲の広大な土地を活かしてゆとりある多様なみどりのネットワークを形成することにより、都心では実現困難なみどりあふれる都市空間の形成を図る。
- エリアの特性や土地利用を考慮し、エリアのシンボルとなる大規模なみどり空間の形成を図るとともに、外縁部の水際には、みどりあふれるオープンスペースを、歩行者空間には、高木の街路樹による緑陰モールを整備するなど、憩いや安らぎの空間を創出する。
- グリーンテラスは、西側の開放的な眺望を確保できるエリアとして、広々としたみどり豊かな憩いの空間とし、夢洲で営まれる様々な都市活動と連携した空間を創出する。
- 駅前広場には、周辺施設と調和し、駅に降り立った人々に強い印象を与えるシンボリックなみどり空間の形成を図る。
- 建築物の敷地内では、ポケットパークなどのパブリックスペースの確保や中低層部の屋上の緑化などにより立体的なみどりを創出するなど、みどりが身近に感じられるよう配慮する
- 夢洲内に整備されるみどりと周辺（舞洲・咲洲などの臨海部やより広範な大阪都市圏）のみどりととの連携や空間的一体性・連続性などのつながりを尊重した空間形成に配慮する。



図 みどりのネットワーク形成



図 グリーンテラスイメージ⁷⁸

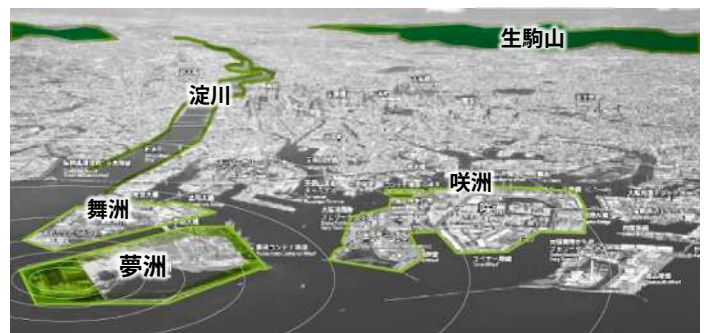


図 広域のみどり・景観のネットワークイメージ

⁷⁸ 出典 <https://www.flickr.com>

5. 水とみどりあふれる骨格軸の空間デザイン

- 水辺軸には、散策路や憩いの場、レクリエーションも可能なたまり空間を配置し、水とみどりを身近に感じられ安らぎのある歩行者空間として、水都大阪に相応しい豊かな水辺環境の創出を図る。
- うるおい軸は、駅から夢洲外縁に向けて開放的な眺望を有し、緑陰モールによる夏でも木陰の下を快適に移動できる歩行者空間、イベントなどの活用も視野に入れたオープンスペース、水景としてのカスケード（小川など）などを公園や建築物の敷地内の公開空地などのパブリックスペースと連続させるなど水とみどりのネットワークを形成する。
- にぎわいプロムナードは、水・みどりとにぎわいが融合する空間として、プロムナードと接する商業などの建物ファサードデザインと調和した景観を形成する。



水辺軸（イメージ）⁷⁹



うるおい軸（イメージ）⁸⁰



にぎわいプロムナード（イメージ）⁸¹

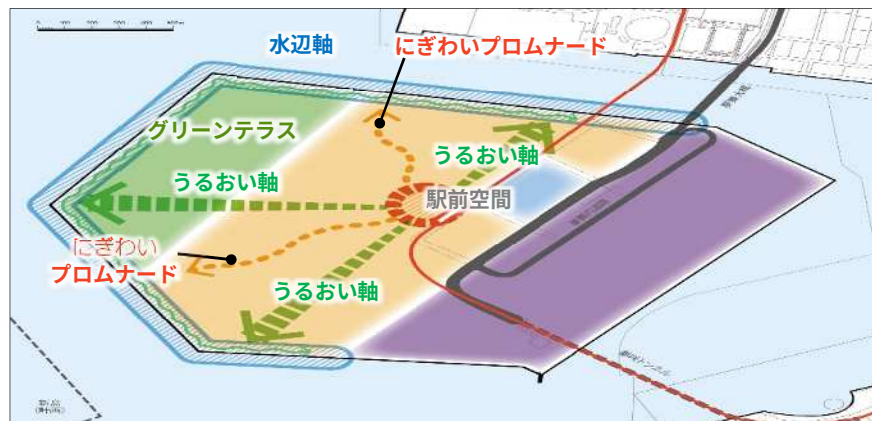


図 水とみどりの骨格



図 うるおい軸のイメージ

⁷⁹ 出典 <https://www.flickr.com>

⁸⁰ 出典 <https://www.flickr.com>

⁸¹ 出典 <https://www.flickr.com>

08 支えるしくみ

安全・安心 ▶ 24 時間ホスピタリティと 安心感に包まれるまちづくり

<考え方・ねらい>

●ホスピタリティと最先端情報技術の融合により、平常時も災害時も 24 時間安全で安心して過ごせるまちの実現

- ・情報提供等ソフト面のきめ細やかなサービス提供・環境整備、災害に対するハード整備、最先端技術を活用した危機管理等により、国内外の人が心から安心して過ごせるまちづくりを行う。

<取り組みの方向性>

1. 日本が誇る安全性やおもてなし精神に基づく、 国内外のあらゆる来訪者が安心、快適に滞在できるリゾート空間の形成

- 国内外のあらゆる来訪者が安心して楽しい時を過ごせるよう施設内や公共空間のバリアフリー化、サイン表示、ICT ネットワークの活用などに配慮したまちづくりを行う。
- 24 時間のホスピタリティと安心感を来訪者に提供する。

(取り組み例)

- ・活動しやすい環境整備
 - ユニバーサルデザインに配慮された施設、情報発信
 - わかりやすいサイン表示やバリアフリーに配慮された歩行者動線
 - 多言語対応が可能な観光案内所
 - 地域ボランティアによる通訳やまち案内
- ・携帯型情報端末、サイネージ等でいつでもどこでも情報収集できる環境整備
- ・まちなかをごみゼロにし、快適な滞在環境を提供
- ・国内外の夢洲来訪予定者に対しても積極的な情報発信

- 旅行者のニーズ、満足度をきめ細かく把握し、宗教的・文化的な習慣に配慮するなど、来訪者が安心、快適に滞在できる環境整備を行う。

(取り組み例)

- ・ムスリム旅行者受入環境の向上
(ハラール対応レストラン、礼拝施設等の整備など)



図 インバウンド向けホテル予約サイトイメージ⁸²



ハラール対応レストラン（イメージ）⁸³



礼拝施設（イメージ）⁸⁴

図 受入環境向上の取り組みイメージ

⁸² 出典：日本政府観光局（JNTO）ホームページ

⁸³ 出典：一般社団法人日本ムスリムフレンドリー協会 ホームページ

⁸⁴ 出典：関西観光 web-ムスリムフレンドリー関西 ホームページ

2. 災害時も安心して過ごすことができるレジリエンス機能の構築

- 東日本大震災以降、将来的な震災に備えレジリエンス機能が求められており、臨海部ではすでに「大阪市地域防災計画」において想定される地震、津波などの災害へのハード対策に取り組み、安全性は確保されている。

- ・地盤沈下を見込んだ 50 年後でも、O.P.+9.1m と想定しており、此花区における満潮時の津波予測高さ O.P.+5.4m に対しても 3.7m の余裕を確保
- ・粘性土を主成分とする浚渫土砂等で埋立されており、液状化しにくい地盤

- 大阪港においては、災害時の緊急交通路及び避難路に架かる橋梁等について、大規模地震による影響に対して安全性の検証を行い、その結果に基づき対策に取り組んでいる。

- ・夢洲へのアクセスルートである夢舞大橋、夢咲トンネルともに、都市直下型地震、東南海・南海地震、南海トラフ地震に対する耐震性が確保されている。



図 計画地盤高さ（海面・津波高さとの関係）⁸⁵

- 夢咲トンネルは、最高レベルの防災設備を導入済み。中央監視センターにより 24 時間体制監視。
- 災害時においても継続的なエネルギー供給が行われるインフラ整備を行う。
- 来訪者が安心して滞在できるよう、ソフト対策（安全確保計画やエネルギー自立対策などを考慮した BCP（事業継続計画）策定など）やハード対策（広場、公開空地等の避難用地としての活用）を行う。

3. ICT や IoT 等の先端技術を活用した危機管理の実施

- 多様なインシデント（事故・犯罪）の防止と予兆検知などに積極的に取り組む。
 - 最先端技術の導入により効率的かつ高度な防犯対応を行うことも想定する。
- （例）ドローン、監視カメラ、サイネージ等の活用



図 防犯システムのイメージ⁸⁶

⁸⁵ 出典：大阪市港湾局算定に基づき作成

⁸⁶ 出典：総務省 情報通信白書平成 28 年版

運営・育成 ▶ 民が主役のまちづくり

<考え方・ねらい>

●「SMART RESORT CITY」を実現する“まちづくりのしくみ”の導入とグローバル人材の育成

- ・夢洲の将来像を見据えつつ、夢洲全体で統一感を持ったまちづくりを推進するため、民が主役となり、まち全体のマネジメント、情報発信および危機管理を行うことで、魅力的であり続けるまちづくりを実演する。
- ・また、今後需要が見込まれる観光・ホスピタリティ分野における高度サービス人材育成を行う。

<取り組みの方向性>

1. 統一感があり魅力的であり続けるまちづくりの基本的な考え方

- 多様な用途や関係者が共存する夢洲において、全体で統一感を有し、その魅力を創出し続けるために、夢洲全体の整備・運営の方針等の作成が必要である。

(取り組み項目例)

- ・土地利用、都市基盤、環境共生、空間デザイン、安全・安心および情報管理

土地利用：整備、土地利用

都市基盤：スマートインフラ整備、交通アクセス整備

環境共生：最先端技術導入、親水空間整備

空間デザイン：非日常を演出する景観デザイン

安全・安心：災害時の避難誘導・エネルギー自立、危機管理

情報管理：観光案内、プロモーション、交通情報の発信

図 整備・運営方針の取り組み項目（例）

2. 継続的な発展・更新を支えるまちづくりのしくみづくり

- 整備・運営方針の取り組みを実行するためには、まち全体のマネジメントやモニタリング、情報発信、危機管理などを行う体制構築が必要である。

- 段階的整備・更新時にも適切に対応する。

(取り組み例)

- ・まち全体で共有すべき様々な取り組みについてICT（情報通信技術）などを活用したプラットフォームを構築する。
- ・ビッグデータ、AIなどの活用により、整備・運営の最適化や各種サービスの高度化・創出を実現する。

- 行政が示す方針に基づき、民間事業者が主体で各取り組みを積極的に推進する。

- 民間活力が最大限発揮できるよう、必要に応じて多様なスキームの適用する。

段階	項目	民間	行政
計画段階	整備・運営の方針等	●	●
整備段階	社会基盤	●	●
	施設（業務・商業ビル等）	●	●
運営段階	ICT・エネルギーインフラ	●	
	インフラ・施設管理・モニタリング	●	●
	エネルギーマネジメント	●	
	情報管理	●	
更新段階	災害時対応・危機管理対策	●	●
	施設改修、撤去	●	●

図 公・民の役割分担案（イメージ）

3. 次世代を担うグローバル人材の育成

- 大阪・関西の継続的な発展を支えるグローバルな人材を育成する場を創出する。
- 特に、観光・ホスピタリティ分野における高度サービス人材育成のための「教育と実践の場が一体化した」観光人材育成の場を夢洲で整備をめざす。



図 人材育成風景イメージ⁸⁷

⁸⁷ 出典：グローバル人材育成教育学会

09 まちの滞在イメージ

滞在イメージ① 家族で楽しむ夢洲での夏休み

子供たちを連れてのロングドライブ。初めて車で夢洲へやってきたが、道路がきれいに整備されていて、渋滞することなく到着することができた。この夏休みは、家族ゆったり過ごせるよう、海が一望できるヴィラでリゾート気分を満喫する。

夢洲内では、地区を循環する交通システムを利用するのが便利だ。ヴィラから駅前に出て、まずは散策。あちらこちらでイベントが開催され、にぎやかな雰囲気。子供たちもおおはしゃいだ。

夜は楽しみにしていたクラシックコンサートへ。ここのコンサートホールの響きは世界有数と言われているが、まさにその通りで美しい音楽を堪能することができた。子供たちは、ホテルに併設されている託児サービスを利用して預けることができ、夫婦二人の時間を楽しめた。

地区内は移動しやすく何でも揃っているのも、小さな子供を連れていても気兼ねなく楽しむことができた。夢洲からヘリコプターや船も出ているらしく、次回はもう少し長く滞在して、周辺のエリアにも足を延ばしてみたい。



滞在イメージ② 海外からのビジネスマンが仕事+αの充実した数日を過ごす

夢洲で開催される国際会議に出席するため来日。24 時間空港である関西国際空港からアクセスしやすいため、前日夜遅くにホテルへチェックインすることができた。

会議前は、日課としているジョギングに出かけた。ジョギングロードが設けてあり、みどりや水を近くに感じられ、とても気持ちの良い朝を迎えることができた。

夢洲とその周辺はアフターコンベンションが充実している。今回は妻も一緒だが、私の会議中は、レディースプログラムに参加して、京都や神戸を巡って楽しかったそうだ。飲食店も数多く揃っているため、会議の成功を祝して、2 人でディナーを楽しむことができた。

翌日は大阪都心部の観光地をひとめぐりし、再び関西国際空港へ向かった。短い期間ではあったが、夢洲は交通アクセスが充実しているため、スムーズに様々な場所を訪れることができた。



滞在イメージ③ 大学生が友人たちと盛り上がる夢洲旅

新大阪から電車を利用して夢洲に到着。駅前には斬新なデザインの建物があって、未来都市にやってきた！という感じがしてワクワクした。

予定を決めないこの旅行の中で、唯一の目的は夢洲のグリーンテラスでのフェスに参加すること。大好きなバンドが数多く出演して、みんなで大盛り上がりした。屋外でのイベントもたくさん開催されていて、行き当たりばったりの旅行でも楽しく過ごすことができた。

夢洲から USJ や海遊館は、シャトル船で移動するとすぐに着いて、とても便利だった。瀬戸内の島々をクルーズできるようだ。また、芸術祭が開催されているらしく、この後は、夢洲から西日本を旅してみよう。



滞在イメージ④ 海外からの旅行客がラグジュアリーに心と体を癒す

クルーズ客船で大阪に到着した。きれいなまちなみを眺めながら、予約していた高級日本料理店へ向かい、久しぶりの和食に舌鼓を打つ。

夢洲でのメディカルツーリズムは、健康への意識が高い仲間内ではとても有名だ。滞在中に体の隅々までチェックしてもらい、より自分に合った食べ物や運動の仕方をレクチャーしてもらうことができた。

日本の伝統芸能に触れることができる施設へ行ってみた。日本文化を間近に見て学び、とても貴重な経験になった。その後は夢洲内のスパへ。温泉で日頃の疲れを癒すことができた。

夜になっても、様々なエンターテインメントを夫婦で楽しむことができた。充実したナイトライフとなった。

心身ともにリラックスし、再びクルーズ客船で次の目的地へ向かう。体をきちんと管理し、気持ちをリフレッシュするために、定期的に夢洲を訪れたいと思った。



写真はイメージ⁸⁸

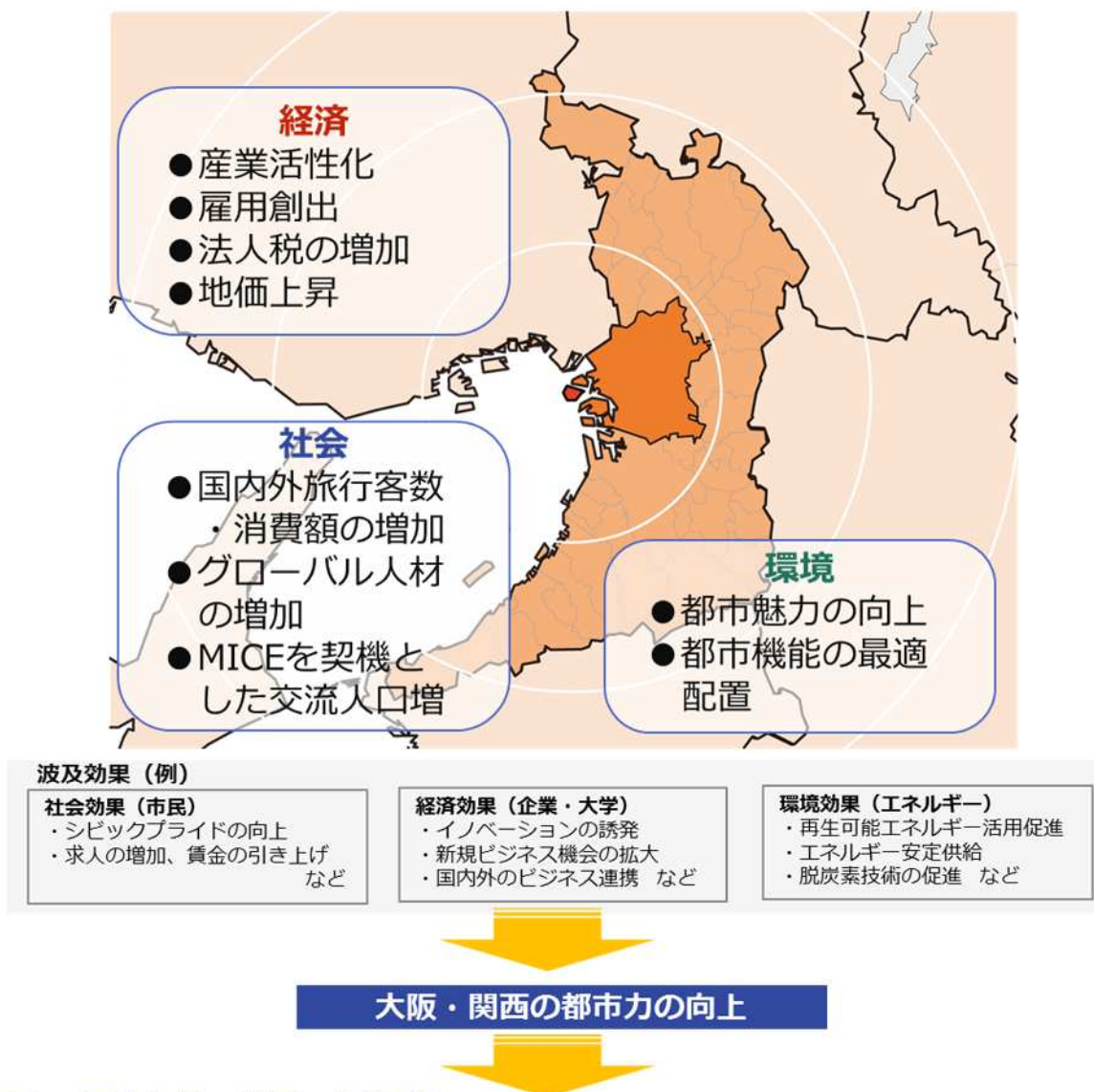
⁸⁸ 出典：<https://pixabay.com/ja/>

10 まちづくりの効果

○大阪、関西全域へ経済・社会・環境の面で様々な効果が期待できる。

○大阪、関西の都市力向上により西日本、日本全国、さらには世界へも効果が波及する。

【大阪・関西への効果】



【西日本・日本全国・世界への効果】

- 西日本への波及効果
 - ・中国地方、四国地方との観光連携
- 日本全国への波及効果
 - ・他地域との産業ネットワーク構築
 - ・インバウンド人口増加による消費拡大 など
- 世界への波及効果
 - ・夢洲、大阪、関西の知名度向上
 - ・投資家による投資機会の拡大
 - ・日本観光における夢洲来訪頻度の増加 など

【参考】

大阪市試算による国際観光拠点の建設・運営における経済的効果（想定）

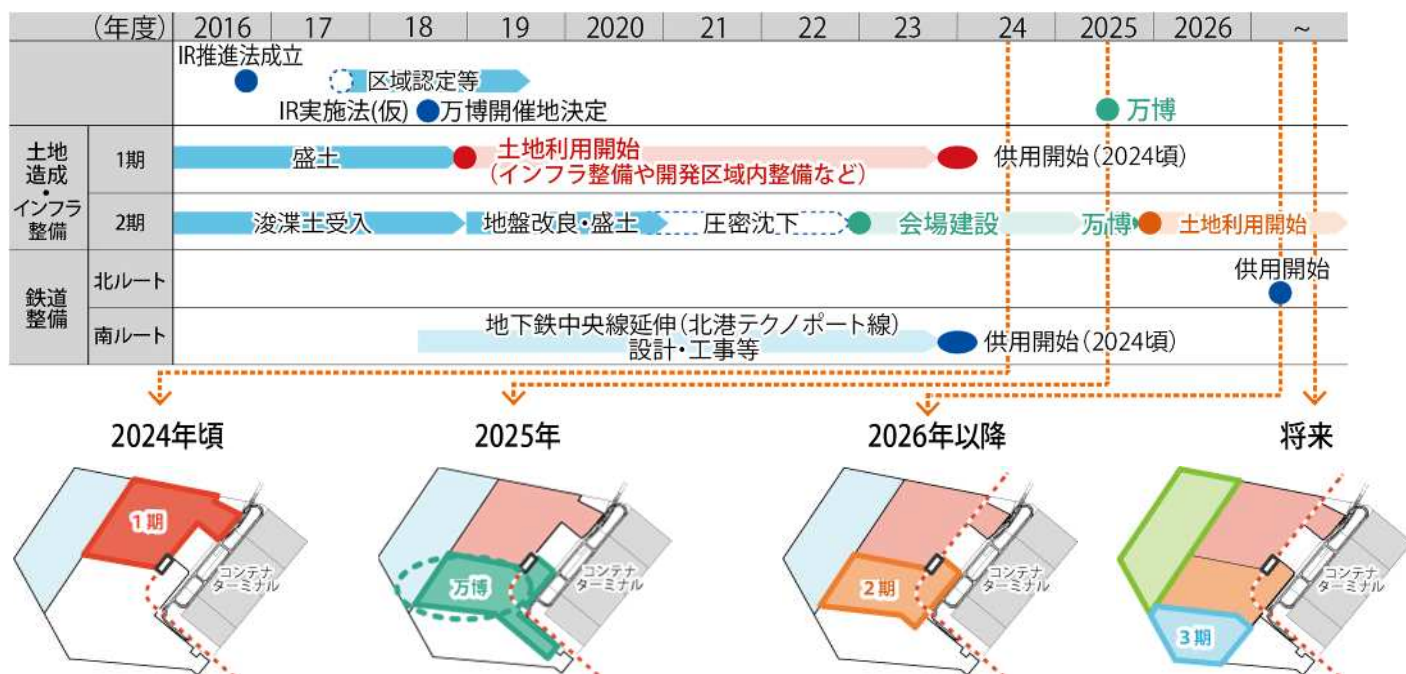
整備時期	1期（70ha）	～2期(130ha)	～3期(170ha)
集客人口	約 1,500 万人/年	約 2,700 万人/年	約 3,000 万人/年
建設投資額※ ¹	4,300 億円	7,350 億円	8,240 億円
建設投資による 経済波及効果※ ²	7,600 億円	13,000 億円	14,600 億円
雇用創出効果（建設投資）※ ²	5.1 万人	8.8 万人	9.8 万人
運営による経済波及効果※ ²	6,900 億円/年	9,800 億円/年	11,000 億円/年
雇用創出効果（運営）※ ²	8.3 万人/年	11.8 万人/年	13.2 万人/年

※¹ 建築物の建設費用のみが対象。その他の敷地造成工事、外構工事、設計管理に係る費用及び消費税等は考慮していない。また、公共施設整備は含まない。

※² 近畿圏の経済波及効果。雇用創出効果については自営業主、家族従業者含む。

11 実現に向けて

1. 夢洲まちづくりの想定スケジュール



(注) 土地造成の前提条件：1期は早期土地利用を想定、2期は万博が開催される場合を想定

2. 実現に向けて

- ・夢洲全体を世界中から人々が集まる魅力ある国際観光拠点として形成するためには、まず、第1期の成功で大きな注目を集めることが不可欠であり、その核となる統合型リゾート（IR）の成否が大きな鍵を握るものと考えられる。
- ・今後、明らかになるいわゆるIR実施法案の内容等を踏まえつつ、IRやその整備に不可欠の鉄道等の主要なアクセス等の整備スキームの検討を進める必要がある。
- ・一方、広大な土地をもつ夢洲のまちづくりは、長期にわたる段階的整備にならざるを得ないが、夢洲全体で一体性のあるまちを形成することが重要であり、夢洲全体でのインフラ整備や空間デザイン、まちのマネジメントなども含めた事業の構築などについても、具体的な検討を進める必要がある。
- ・さらに、この構想を踏まえて大阪の公・民が一丸となって夢洲のまちづくりを推進するための体制などについても併せて検討することが求められる。

夢洲まちづくり構想検討会構成員

公益社団法人関西経済連合会専務理事

一般社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長
大阪商工会議所専務理事

大阪府副知事
大阪府府民文化部長

大阪府商工労働部長
大阪府政策企画部長
大阪府都市整備部長
大阪府住宅まちづくり部長

大阪市副市長
大阪市経済戦略局長
大阪市都市計画局長
大阪市港湾局長

大阪市建設局長

川邊 辰也（第2回検討会まで）
松村 孝夫（第3回検討会から）
齊藤 行巨
宮城 勉

新井 純（第3回検討会から）
大江 桂子（第2回検討会まで）
岡本 圭司（第3回検討会から）
津組 修
山口 信彦（第3回検討会から）
吉村 庄平（第3回検討会から）
堤 勇二（第3回検討会から）

田中 清剛（第3回検討会から）
井上 雅之
川田 均
徳平 隆之（第2回検討会まで）
藪内 弘（第3回検討会から）
永井 文博（第3回検討会から）

夢洲まちづくり構想検討会経過

会議名	開催年月日
第1回 夢洲まちづくり構想検討会	2014（平成26）年10月30日
第1回 ワーキング	2014（平成26）年12月4日
第2回 ワーキング	2014（平成26）年12月12日
第3回 ワーキング	2015（平成27）年1月28日
第2回 夢洲まちづくり構想検討会	2015（平成27）年2月9日
第4回 ワーキング	2016（平成28）年10月19日
第5回 ワーキング	2016（平成28）年12月14日
第6回 ワーキング	2017（平成29）年1月5日
第3回 夢洲まちづくり構想検討会	2017（平成29）年1月10日
第7回 ワーキング	2017（平成29）年1月30日
第4回 夢洲まちづくり構想検討会	2017（平成29）年2月6日

夢洲まちづくり構想検討会 規約

(名 称)

第1条 本会は、「夢洲まちづくり構想検討会」と称する。

(目 的)

第2条 夢洲まちづくり構想検討会（以下「検討会」という。）は、夢洲地区での観光拠点の形成など新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくり方針や土地利用等に関して、大阪府、大阪市および関西経済界の知恵を集結し、将来を見据えた広い視点から検討し、構想を策定することを目的とする。

(事 業)

第3条 検討会は、前条の目的を達成するため、以下の検討・協議を行う。

- (1) 夢洲地区の果たすべき役割
- (2) 夢洲地区の基本方針（広域観光、港湾機能など）
- (3) 夢洲地区に導入すべき都市機能や土地利用等の検討
- (4) その他、各前号に関連する重要な事項に関する事業

(組 織)

第4条 検討会は別表に掲げる委員をもって組織する。

(会議の運営)

第5条 検討会は会議の運営に関し、以下のとおり定める。

- (1) 検討会にワーキングを置くものとする。
- (2) 検討会の事業に関係があり必要と認める場合には、本会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。
- (3) 検討会は、検討会終了後、次の内容の議事要旨を作成し公表するものとする。
 - ・検討会の会議の日時及び場所
 - ・出席者の氏名
 - ・議題
 - ・議事の内容
 - ・その他検討会が必要と認める事項
- (4) 検討会の事務局は大阪市経済戦略局とする。

(解散)

第6条 検討会は、夢洲まちづくり構想の策定をもって、解散する。

(細 目)

第7条 この規約に定めるもののほか、検討会の運営・解散などに関して必要な事項は委員の協議により定める。

(附 則)

この規約は、平成26年10月30日より施行する。

(附 則)

この規約は、平成29年1月10日より施行する。

別 表（第 4 条関係）

大阪市副市長	田中清剛
大阪市経済戦略局長	井上雅之
大阪市都市計画局長	川田 均
大阪市港湾局長	藪内 弘
大阪市建設局長	永井文博
大阪府副知事	新井 純
大阪府府民文化部長	岡本圭司
大阪府商工労働部長	津組 修
大阪府政策企画部長	山口信彦
大阪府都市整備部長	吉村庄平
大阪府住宅まちづくり部長	堤 勇二
公益社団法人関西経済連合会専務理事	松村孝夫
一般社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長	齊藤行巨
大阪商工会議所専務理事	宮城 勉

